市史抄片別巻　vol.74

「思ひ出」写真館

市史編集委員会では、数年後に写真を中心とした本を刊行する予定です。現在さまざまな写真や絵はがきなどを集めています。隔月１日号に、同委員会で集めた写真を紹介します。
【問】市生涯学習課市史編さん係（☎72・1275）

【写真３】前列右から立花和雄、文子、女流棋士たち。後列右から呉、藤沢

【写真１】厳しい表情で盤面を見つめる呉（右）と藤沢（左）

【写真２】激戦の傍ら御花でバッティングを楽しむ藤沢、呉ら

両雄、御花に戦う

市史編さん係　梅本 真央

1月には、囲碁に関わる記念日が2回あります。5日は「囲碁の日」、15日は「いい碁の日」。どちらも語呂合わせです。今回は、囲碁にちなんだ写真を紹介します。

昭和26（1951）年10月1日、毎日新聞社主催で「世紀の大勝負」といわれた四番碁（囲碁の四番勝負）が始まりました。戦うのは呉清源と藤沢庫之助（朋斎）。当時、九段はこの2人しかいなかったため、棋士の最高位同士の戦いでした。東京の日本工業倶楽部講堂で行われた第一局には約40人のファンがつめかけ、大勢が見守る中、勝負の幕が開きました。そして、翌年の昭和27（1952）年2月まで、柳川の御花、石川県の山中温泉、愛知県の健碧館の順で対局が行われたのです。

写真1は、御花で対局中の2人です。御花での第二局は、12月1日の午前9時から3日の午後5時15分まで行われました。色白の呉が闘志に顔面を赤くし、長考派の藤沢はとうとう持ち時間13時間のうち12時間59分を費やすほどの大熱戦でした。記者として観戦した芥川賞作家の火野葦平は、「盤面から火の噴き上がるような気がした」（『毎日新聞』昭和26年12月4日）と感想を述べています。

写真2は、そんな激闘を続ける2人が御花でバッティングに興じているところです。バットを構える藤沢と笑いながら前方を見る呉、キャッチャーも棋士でしょうか。奥の審判は木谷実八段（当時）のようです。

写真3は、立花家16代当主立花和雄とその妻文子や呉、藤沢、女流棋士たちとの記念写真。リラックスした表情が印象的です。

この四番碁は呉の全勝で幕を閉じました。その後呉は新たな定石や囲碁の思想を生み出し、「昭和の棋聖」と呼ばれる大棋士となりました。

ひとを結ぶ。
まちを結ぶ。

column No.87

地域おこし協力隊

大都市圏から地方へ人の流れを作り、将来の定住を目指しながら、地方の活性化への貢献を目指すプログラム「地域おこし協力隊」。市で活動する６人の隊員たちの活動を紹介します。
【問】市観光課（☎77・8563）、市商工・ブランド振興課（☎77・8722）

会場の泡にはしゃぐ子どもたち

泡マルシェを開催 1500人が訪れ大盛況

柳川むつごろうランドで何かにぎわいを作るイベントができないかと考え、11月28日にシャボン玉をテーマにした「泡マルシェ」を開催しました。「泡に包まれた柳川の新しいお祭り」をコンセプトに、来場者先着1000人にシャボン玉セットをプレゼントしました。また、バブルマシーンを使ってシャボン玉にあふれた空間を創出。また、「いろんな道具を使ったシャボン玉を作り」「シャボン玉アート」「バスボム作り」といったワークショップを開催し、たくさんの子どもたちの笑顔を作ることができました。

さらに７組のアーティストのライブステージ、市内の飲食店の出店など、大人でも楽しめる内容が盛りだくさんのイベントとなりました。来場者1000人以上を目標に開催したところ、当日は約1500人に来ていただき、にぎわいを作るという目的は達成できたと思います。また暖かくなってきたころに、第２回目を開催したいと考えています。その際はぜひ、遊びに来てください。

平井 剛志（30歳）
【プロフィル】市観光課に所属。柳川観光の未来を担うマルチプレイヤー

自作のメニューでカフェを出店

泡マルシェでカフェを出店 お菓子が完売し大成功

柳川むつごろうランドで開催された泡マルシェに「anonomo cafe」を出店しました。柳川に移住して５カ月目、初めて自分のアイディアを形にして皆さんに披露できました。出店へ向けてコーヒーの勉強をしたり、カナダで作っていたグラノーラバーを再現したりしながら、販売するお菓子やスープ、カフェメニューを完成させました。

当日はポカポカ陽気に恵まれて、60個用意していたお菓子は完売。大きな鍋で用意したスープも、最後は鍋の底が見えていて、初めてのカフェ出店は大成功でした。お手伝いと応援をしてくださった方々に感謝しています。今後は交流館なかしまワッセで、月に１回程度anonomo cafeを開いていく予定です。日程が決まり次第インスタグラムなどでお知らせします。ランチメニューを考案中なので、ぜひanonomo cafeをのぞきにきてください。また、３月には沖端にビール醸造所がオープン予定です。メニュー開発を手伝っているので、楽しみにしていてください。

西濱 美穂（45歳）
【プロフィル】市商工・ブランド振興課に所属。食の新たな特産品づくりを担当